

## ロシア

### 成熟化の様相を示しつつあるロシア経済

やや中長期的な視点でロシア経済を概観すると、世界経済危機を経て、経済成長率の水準が下がったことが取組でできる。2007年までは8%台の成長を記録するなどかなり高い水準での成長を維持していた。その後、2009年の大幅な落ち込みを経て、2010年及び2011年は4.3%の成長となった。2012年第1四半期も4.9%であり、4%台の成長が「普通」の水準になってきている感がある。

2012年のこれまでの状況で特徴的なのは、消費者物価が非常に安定していることである。5月末時点で、昨年12月比で2.3%の上昇にとどまっている。これは、過去最低のインフレ率だった2011年をも下回る水準である。より注意深く見てみると、2011年2月以降、対前月上昇率が1%以上となった月はない。特に昨年の夏は食料品の物価が下落傾向を示していた。食料品価格については、今夏の天候次第の面もあるが、仮に今年後半に昨年と同様の物価動向を示すとすれば、年間インフレ率が3%台に収まることも想定される。

このように物価が安定している背景として、実質可処分所得の伸びの鈍化を指摘したい。データからは、所得があまり伸びない中で、消費者が低価格を指向しながら消費を維持している姿が垣間見られるように思う。仮に、実際にそのようなことが起きていて、それによってインフレ率が低下しているのだとすれば、少なくとも消費市場において価格を通じた競争が相当に機能していることを示す傍証となる。

もちろん、別の説明も可能である。例えば、欧州金融危機の影響で、ユーロはルーブルに対して大幅に切り下がっている。多くの消費財を欧州から輸入しているロシアにとっては、物価下落の大きな要素である。

個人レベルでロシア人と接しての実感としても、ロシアの消費者市場で、大盤振る舞いから堅実な消費あるいは賢い消費へのシフトが起こったように思う。成長率の低下と併せて考えれば、経済の成熟が進んでいることが示唆できるのではないかと。

### APEC議長国としての動き

ウラジオストクでのAPEC首脳会議の開催が間近に迫ってきた。会議に向けて整備が続けられてきたインフラも徐々にその姿を見せつつある。象徴的プロジェクトであるルースキー島への架橋も完了し、7月2日にメドベージェフ首相をはじめとする関係閣僚が出席して完成式典が開催された。世界最長の径間を持つ斜張橋であり、ロシアが世界に誇りうる建造物となった。他の建設プロジェクトでは、遅れが指摘されたり、トラブルの発生が問題となったりしている例もあるが、当初心配されたような「全く間に合わない」といった事態にはなっていない。地元にはひとまずの安心感も漂っているようだ。

ところで、より本質的に重要なのは、議長国として議論をリードする役割である。この面でもロシアは積極的に各種会合をホストしている。その中で、これまで2回の山場があった。1回目は、5月20日～6月5日にタタルスタン共和国のカザン市で開催された一連の会議である。食糧安全保障担当大臣会合（5月30日～31日）及び貿易担当大臣会合（6月4～5日）のほか、SOM（高級実務者会合）を筆頭に経済委員会、貿易・投資委員会、経済・技術協力委員会というAPECの中核をなす委員会やその他の専門分野の会合、計37の会合が開催された。また、これに合わせて日ロ投資フォーラムが開催されるなど、他のイベントも行われた。2回目の山場は、6月24～25日のエネルギー大臣会合及び6月27～28日の鉱業担当大臣会合を中心としたサントペテルブルク市での一連の会合である。

7月以降は、環境大臣会合及び観光大臣会合（いずれもハバロフスク市）、中小企業大臣会合、運輸大臣特別会合、電気通信・情報産業担当大臣会合（いずれもサントペテルブルク市）といった大臣会合が目白押しである。そして、クライマックスは9月2～9日にウラジオストク市で開催される最終SOM会合、APEC閣僚会議、APEC首脳会議などのハイレベル会合である。

ロシアがリードするAPECの成果について、関心を持ってフォローしていきたい。

(ERINA調査研究部主任研究員 新井洋史)

(対前年同期比)

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2011	2012	2012				
							1Q	1Q	1月	2月	3月	4月	5月
実質GDP	8.2	8.5	5.2	▲7.8	4.3	4.3	4.0	4.9	—	—	—	—	—
固定資本投資	16.7	22.7	9.9	▲16.2	6.0	8.3	▲0.8	16.3	15.6	16.2	17.0	7.8	7.7
鉱工業生産高	6.3	6.8	0.6	▲9.3	8.2	4.7	5.9	4.0	3.8	6.5	2.0	1.3	3.7
小売売上高	14.1	16.1	13.5	▲4.9	6.3	7.0	5.0	7.6	7.4	7.9	7.4	6.5	6.8
実質可処分所得	13.5	12.1	2.3	2.1	4.2	0.8	0.2	2.4	1.0	3.1	2.8	2.1	3.6
消費者物価*	9.0	11.9	13.3	8.8	8.8	6.1	3.8	1.5	0.5	0.9	1.5	1.8	2.3
工業生産者物価*	10.4	25.1	▲7.0	13.9	16.7	12.0	7.0	2.9	▲0.3	0.8	2.9	3.6	1.1
輸出額(十億ドル)**	301.2	351.9	467.6	301.8	397.1	516.0	111.5	131.5	40.0	44.7	46.9	44.3	—
輸入額(十億ドル)**	137.8	199.7	267.1	167.5	228.9	305.2	60.9	68.9	18.2	23.7	27.0	24.8	—

\*前年12月比。

\*\*税関統計ベース。

\*\*\*斜体は暫定(推計)値。

出所:『ロシアの社会経済情勢(2012年5月号)』ほか、ロシア連邦国家統計庁発行統計資料